

言語における普遍と特殊

—うなぎ文をめくって—

奥津 敬一郎

(東京都立大学名誉教授)

1. うなぎ文論争 (日本語は非論理的・非文法的か?)

- Copula としての「だ」: 「ぼくは太郎だ」「ソクラテスは人間だ」
 日常会話・CM・古典 (『万葉集』『枕草子]) のうなぎ文
 森有正 (1971) 「経験と思想」『思想』10月号
 ドメニコ・ラガナ (1975) 『日本語と私』文芸春秋社
 本多勝一 (1976) 『日本語の作文技術』朝日新聞社
 金田一春彦 (1955) 「日本語」『世界言語概説』研究社
 奥津敬一郎 (1978、1993 8増補) 『ボクハウナギダの文法』くろしお出版
 丸谷才一 (1986) 「うなぎ文の大研究」『文芸春秋』7月号

2. うなぎ文の文法—述語代用化、談話文法、省略と代用—

- A: 君は 何を 食べる?
 B: a ぼくは うなぎを 食べる。
 b ぼくは うなぎ だ。
 c ぼくは うなぎ。
 d うなぎを 食べる。
 e うなぎ。

3. うなぎ文は日本語だけか?

- 英語: Hoffer (1972) 久野 暉 (1978) 中野道雄 (1982) Fauconnier (1984) など
 韓国語: 浜之上幸 (1994)
 中国語: 趙元任 (1968)、大河内康憲 (1982)、許宋華 (2001) など

「徳は孤ならず、必ず隣あり」

資料

(1) 『万葉集』16 額田王

天皇、内大臣藤原朝臣に詔して、春山の万花の艶と秋山の千葉の彩とを競憐はしめたまふ時、額田王、歌を以ちて判る歌
 冬ごもり 春さり来れば 鳴かざりし 鳥も来鳴きぬ 咲かざりし 花も咲けれど
 山を茂み 入りても取らず 草深み 取りても見ず 秋山の 木の葉を見ては 黄葉
 をば 取りてぞしのふ 青きをば 置きてそ嘆く そこし恨めし 秋山われは

(2) 『枕草子』 清少納言

春はあけぼの。やうやうしろくなり行く、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲の細くたなびきたる。
 夏は夜。月の頃はさらなり、やみもなほ、ほたるのおおく飛びちがいたる。また、ただひとつふたつなど、ほのかにうちひかりて行くもをかし。雨など降るもをかし。
 秋は夕暮れ。……………

秋は夕暮れ。……………

(3) 森有正

「フランスの大学生に日本語を教えることは非常に困難である。…中略…

私は、一番大きい困難は、日本語は、文法的言語、すなわちそれ自体の中に自己を組織する原理をもっている言語ではない、という事実にあると考えている。」

(4) ドメニコ・ラガナ

「ろくにテニヲハのつかい方も心得ていない私がこんなことを言うと、あつかましく聞こえるだろうが、森氏の主張は独断のように思われてならない。…中略…

しかし「日本語は文法的言語、すなわちそれ自体の中に自己を組織する原理をもっている言語ではない」と言われては、納得が行かない。……私の考えでは、どの言語でもそれ自体の中に自己を組織する原理、法則を持っていると思う。」

(5) 本多勝一

「まことに「それ自体の中に自己を組織する原理をもつてい」ないのは、森有正氏自身であろう。…中略…

いったい森有正氏には、日本語をフランス語に訳す初歩的な力が果たしてあるのだろうか。…中略… そのような森有正氏がパリ大学で長く日本語を教えていたというのだから、ことは一学者の無知にとどまらず、日仏両国の公的文化接触での重大なミス=キャストでもある。これもまた植民地型知識人の一人なのであろう。言葉についての森有正氏の無知・鈍感が、彼の専門としての哲学、ひいては「ものの考え方」の本質にまで及んでいなければ幸いだが。」

(6) 金田一春彦

「ダの用法中、注意すべきものは、長い句を「意味の上で根幹をなす名詞+ダ」で表現する手法で、” 雨ガ降ツテイル!” といふ文は” 雨ダ!” と言い換へることができ、” 君ワ何オ食ベル?” に対して” ボクハウナギオ食ウ” と答へる代わりに、” ボクハウナギダ” 短く言へるがごときである。」

(7) 中野道雄 (1982) 「発想と表現の比較」『日英語比較講座 第4巻』大修館

Mort Walker 作のマンガ Beetle Bailey

兵隊Aが、上官B, C, Dにコーヒーを配っている。

A: Let's see, sir. You're the black coffee with sugar?

B: Right.

C: I'm the coffee with cream AND sugar, Beetle.

A: Okey. (to D) Then you must be the cream and sugar with no COFFEE, sir.

D: I don't like your tone of voice! 皮鞋

(8) G. Fauconnier (1984) *Espaces Mentaux* (坂原他訳『メンタル・スペース』白水社

I'm the hamsandwich : the quiche is my friend.

(9) 趙元任 (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*, Univ. of California Press

他(她) 是一個美國丈夫。

(10) 大河内康憲 (1982) 「中国語構文の基礎」『講座 日本語学 10』明治書院

他是北京嗎? 是, 我是北京。他是上海。

(11) 許宗華 (2001) 『現代日本語の名詞述語文の誤用論的研究』範曉 (編) (1998)